

たかたみなみばら

小田原市 高田南原遺跡

出土品展示会 資料



2005年9月3日(土)
財団法人 かながわ考古学財団

大発見！古墳時代の銅鏡

高田南原遺跡 調査概要

遺跡名 高田南原遺跡 (小田原市No.259 遺跡)
 時代 弥生後期～古墳前期、古墳時代後期
 調査原因 穴部国府津線街路事業に伴う発掘調査
 事業者 小田原土木事務所
 調査期間 2005年3月1日～8月31日
 発見遺構 溝14条・竪穴状遺構3基・土坑7基
 出土遺物 弥生後期～古墳前期:土器・青銅製品・木製品
 古墳後期:土器・鉄製品・石製品・木製品

高田南原遺跡の調査も終盤に入った8月中旬、遺物包含層を調査中に新たな発見がありました。調査区の中でも標高の低い部分からは完全な形の銅鏡が、さらに調査区北側からは銅釧(腕輪)が一部分欠損した状態で出土しました。

今回の発掘調査において最も重要な成果であるこれら出土品について、いち早く皆様にお知らせするために、現地調査事務所にて出土品展示会を開催いたします。

これら先人達の足跡を、郷土小田原の歴史を探る資料として、活用して頂ければ幸いです。



銅鏡出土状況



銅釧出土状況



約 4cm

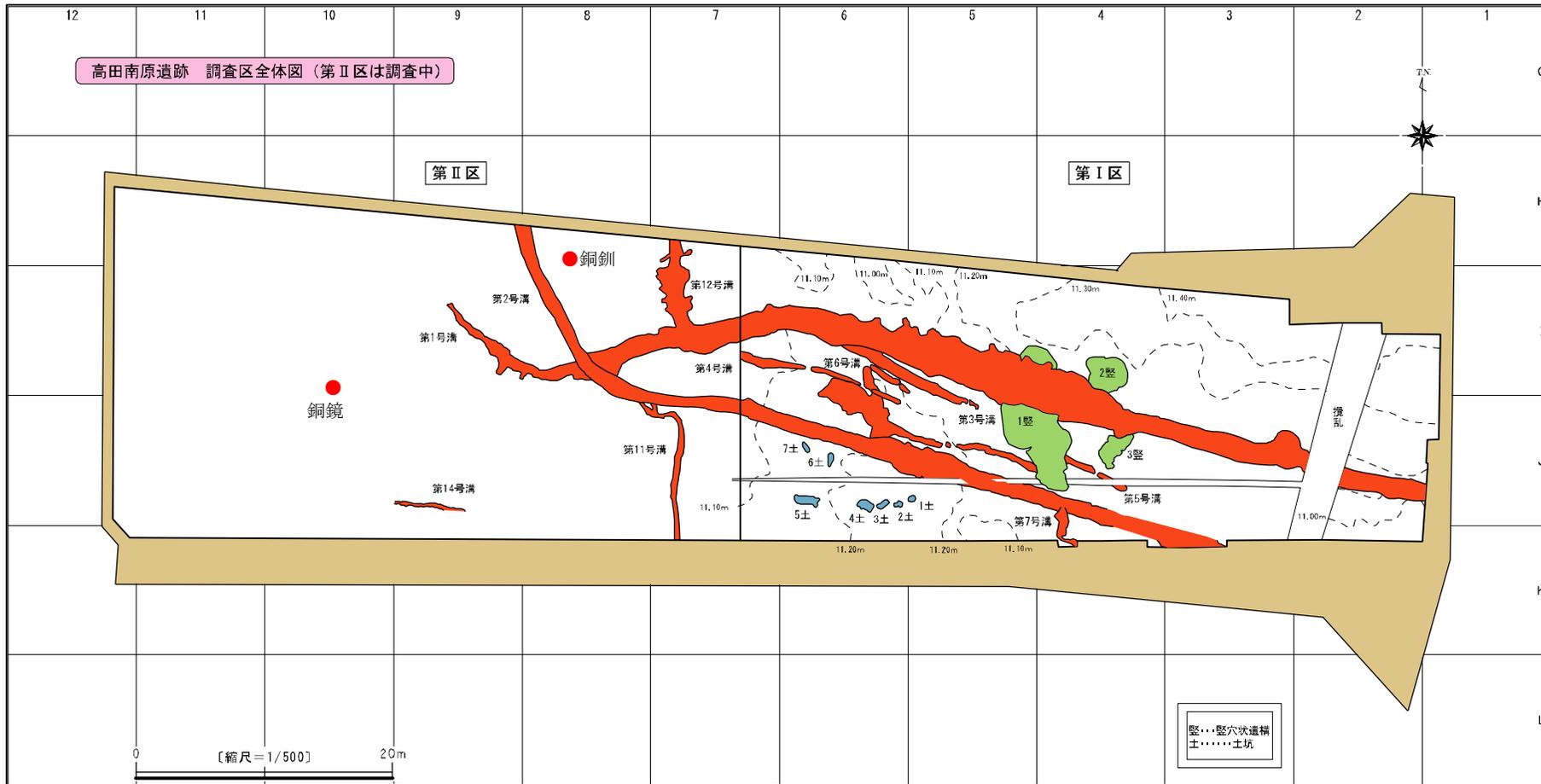


8.1cm

【銅鏡】名称 珠文鏡 時期 古墳時代前期 特徴 古墳時代の小型倣製鏡と呼ばれる銅鏡です。小田原市域では永塚下り畑遺跡に次いで2例目です。古墳時代の銅鏡は、古墳の副葬品として墳墓から出土する場合と竪穴住居や遺構外出土など副葬品でない場合があります、今回は後者の事例です。出土地点は調査区の低位面にあたり、当時は低湿地でした。この場所またはこの周辺での廃棄・遺棄や水辺に関わる祭祀が行われていたと考えられます。この銅鏡には鈕と呼ばれる中央の突起部に、樹皮状のひものようなものが巻き付けられており、当時の使用法を探る手がかりが残されている希少なものです。

【銅釧】時期 弥生時代後期 特徴 墳墓の埋葬例では複数を着用している様子がわかります。本遺跡では銅鏡と同様に墳墓からの出土ではないことが特徴で、鏡と同じように低湿地に廃棄・遺棄されたものであると考えられます。この銅釧は約 1/4 を欠損し、つぶれたように歪んでいます。

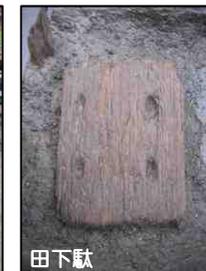




おおよその年代

紀元前3万年	旧石器時代
紀元前1万年	
紀元前400年	縄文時代
250年	弥生時代
700年	古墳時代
1200年	古代
1600年	中世
1900年	近世
	近代

高田南原遺跡



調査区では、微高地と低湿地を区画するよう第1号・第12号溝（弥生後期～古墳前期）と第2号溝（古墳時代後期）の溝などが掘られています。当時の水田は発見されていませんが、農耕の痕跡である杭列や田下駄などの木製品が多量に出土しています。

- ◇珠文鏡（しゅもんきょう）内側の区画内に珠文と呼ぶ小円点を数多く並べた文様を特徴とする鏡です。
- ◇倣製鏡（ほうせいきょう）海外で製作され日本に移入された舶載鏡（はくさいきょう）を模倣して作った鏡で、様々な鏡式があります。舶載鏡に比べて材質や仕上がりが悪く、文様表現が不明確です。
- ◇銅剣（どうくしる）青銅製の腕輪で、祖型は貝で作った腕輪です。

小田原市高田南原遺跡
出土品展示会 資料
2005.9.3
財団法人 かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
Tel. 045-252-8661

